

組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名： **医学部保健学科**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)	
①教育領域		
①-1 目標		
<p>教育の実施体制については、教員の退職、転任などにより教員数が減る中、教員の確保に努める。学士力の向上と教育の効率化を図るため、専攻の壁を取りのぞいた教育体制を作る。各専攻の病院実習は岡山大学病院の看護研究・教育センター、看護部、医療技術部放射線部門・検査部門と連携し、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師を臨床教授、臨床准教授、臨床講師に委嘱し、教育を行う。この中から次世代の教育を担う教員の育成を進める。</p> <p>教育方法・内容に関しては医学・保健医療系分野(医学部医学科・保健学科、歯学部、薬学部)が連携して、チーム医療実習の合同学習や多学部合同シミュレーショントレーニングなどの教育を行う。</p> <p>学習達成度の評価にWeb based testing (WBT)を実施する。3専攻ともWBT用問題の集積を行い、主に4年生を対象にWBTを実施する。さらにCBTによる学習達成度の評価に取り組む。臨床実習に出る要件、あるいは進級要件としての基礎専門知識の到達レベルの評価に用いる為、基礎教育のモデル・コア・カリキュラム策定の準備をする。</p> <p>卒業研究は公開で発表会を行い、記録を残す。</p> <p>アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとシラバスにおける授業科目の位置づけ、到達目標などを相互に検証し、カリキュラムマップを明確にし、教育の改善に努める。</p>	<p>・教育の実施体制については平成26年度に転任・退職した後の、補充可能な教員の補充は出来た。また教員定員の削減は計画に従って継続している。教員は所属専攻に関わりなく、横断的に講義を担当し、3専攻の学生が合同して受講する科目の充実を図った。各専攻の臨床実習は岡山大学病院で実施しており、看護部の看護師、医療技術部放射線部門・検査部門の診療放射線技師、臨床検査技師に、臨床教授(8名)、臨床准教授(33名)、臨床講師(57名)を委任し、教育における病院との連携を密にした。</p> <p>・医学部、薬学部との共通教育として「チーム医療演習」を実施した。学部教育ではマスカットキューブのシミュレーターを用いて実習、演習を実施し、実施回数の増加を図った。</p> <p>・学習達成度の評価にComputer based testing (CBT)やWeb based testing(WBT)を実施した。3専攻とも数回にわたってCBT、WBTを実施した。これにより学力の伸長度を判定し、最終的に国家試験に対する指導を行った。またプール問題を増やし、独自の評価システムの構築を図った。3専攻ともモデルコアカリキュラムについての準備を行った。</p> <p>・アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの教員、学生への理解を徹底し、受験生や高等学校等に向けては大学説明会、高大連携活動、オープンキャンパス、オープンスクール、ホームページ、学科案内などにより広く周知した。カリキュラム・マップは作成を終えた。平成28年度の60分授業・クォータ制の準備を行った。</p>	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標		
<p>看護師、保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師の国家試験合格率、就職率。 留年・休学・退学者数</p>	<p>・平成26年度の国家試験合格率は看護師94%、保健師99%、助産師100%、診療放射線技師83%、臨床検査技師95%と高い合格率を達成した。</p> <p>・平成26年度の就職率は看護師、保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師では大学病院及びその他医療機関への就職と大学院への進学を併せると、全てで100%を達成できた(大学院進学を含む)。</p>	
②研究領域		
②-1 目標		
<p>研究は研究科と一体となり遂行し、科研費、寄附金、委託研究費など外部資金の獲得に努める。</p> <p>科研費については教員全員が申請する。</p> <p>研究の遂行にあたり、医学部共同実験室、鹿田地区動物実験施設など共同利用設備を活用する。</p> <p>研究倫理コンプライアンスの向上を図る。コンプライアンス研修への全員参加を推進する。</p>	<p>・外部資金の獲得、科研費などについては保健学研究科の組織目標評価報告書に記す。</p> <p>・各専攻とも卒業研究の発表会を実施した。卒業論文は卒業論文集として記録した。</p> <p>・コンプライアンス研修への参加教員は100%(1名はe-learning)であった。</p>	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標		
コンプライアンス研修への参加者数(全員参加)		
③社会貢献(診療を含む)領域		
③-1 目標		
<p>健康の維持や疾病の予防などヘルスプロモーションに関する公開講座の開催や研究会等を行い、地域社会との交流や地域医療の推進を行う。</p> <p>タイ、シーマハサラカム看護大学との交流は引き続き行い、特に相互交流を推進する。</p> <p>外国人研究者、留学生の受入に努める。</p>	<p>・タイ国シーマハサラカム看護大学からは平成26年10月14日から17日に学生4名教員2名の計6名の訪問があり、病院訪問、研究発表、講演会、交流会が行われた。またNEC-Net(東北タイ保健医療系大学連合)の各大学から代表者9名の訪問があり、将来の研究交流について話し合いが持たれた。</p> <p>・「保健学科長と語る会」の参加者は平成26年度は35名であった。平成25年度の14名に比し、倍以上の増加であった。</p>	
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標		
<p>公開講座の開催回数、参加者数。 「保健学科長と語る会」、「保健学研究科フォーラム」の高校生参加者数。</p>		<p>・平成26年度のオープンキャンパスは台風のため、午前中のみの実施であったが、午前午後の実施でも収容しきれない参加人数が予想されていた。オープンキャンパスの実施場所、日時などの再考が必要がある。</p> <p>・「保健学研究科フォーラム」のテーマは『地域医療に貢献する』というテーマで26年10月25日に実施した。参加者数は174名で、68名の高校生の参加があり、多くの質問や活発討論が行われた。</p>
【総括記述欄】		
<p>・全体的にみて年度目標はほぼ達成できたと思う。アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの3ポリシーの周知徹底を行った。目標になかった60分授業・クォータ制の実施が浮上したが、平成27年度は平成28年度実施のための準備を行う。</p>		